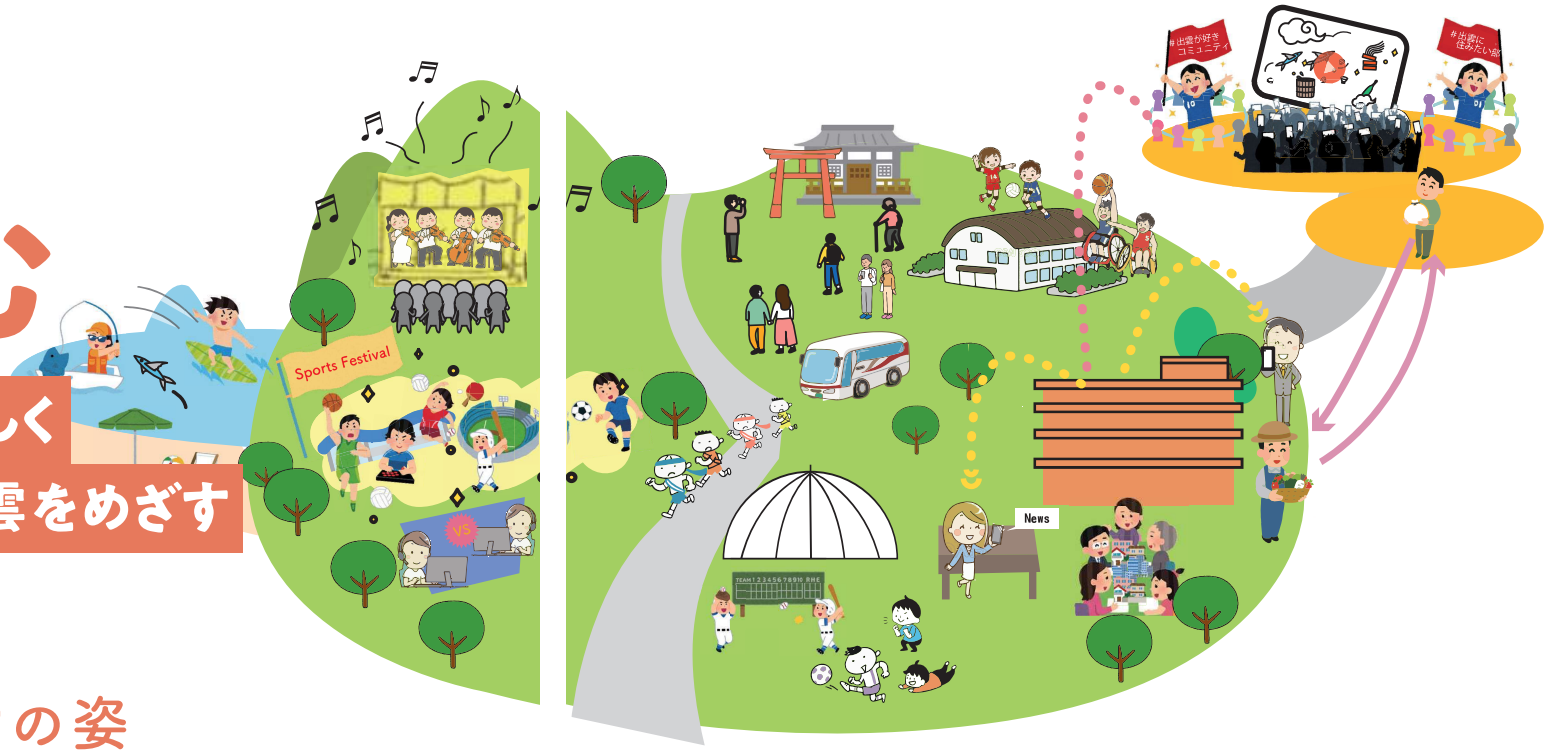
出雲力で

ともに楽しむ

誰もが住んで楽しく訪れて楽しい出雲をめざす



2030年の出雲の姿

出雲力で、芸術文化・スポーツ面などの出雲を楽しむ環境が整い、誰もが魅力を感じ、楽しめるまちとなっています。

生涯学習、芸術文化、歴史、スポーツ活動などを推進することで、市民が楽しみや喜びを感じ、ふるさと出雲への誇りや愛着を持って暮らしています。

様々な手段を活用して出雲の魅力を積極的に発信し、出雲に対する人々の興味・関心を引き出しています。

必要な情報を分かりやすく伝え、市政への理解・関心を高めることで、市民参加のまちづくりが行われています。

チャレンジ

2200万人

～生涯学習等施設利用者数（８年間）～

コロナ禍前の平成 30 年度に生涯学習等施設（※）を利用した人は、年間延べ約 268 万人。市民生活をより充実したものにするために、学び楽しみ、人生をより豊かにするために、生涯学習等を行う公共施設の利用者を 8 年間で 2,200 万人（年平均 275 万人）にすることをめざします。

※生涯学習等施設：出雲市民会館等の市民文化施設、図書館等の社会教育施設、体育館等のスポーツ施設、コミュニティセンター

24 芸術文化で豊かな出雲を

基本方策　ともに結ぶ　ともに支える　ともに育む　ともに楽しむ

SDGs

芸術文化でこころ豊かに

○心の豊かさが真に実感できる芸術文化の都出雲の創造の実現をめざします。出雲総合芸術文化祭や出雲芸術アカデミーなどを通して、鑑賞機会や発表機会を充実させ、誰もが気軽に芸術文化に接する機会の提供に努め、市民の積極的な参加促進を図ります。

○音楽活動を出雲の特色ある活動として、「音楽のまち出雲」の推進に努めます。

芸術文化を支える人づくり

伝統芸能をはじめとする芸術文化を次世代に伝えていくため、子どもたちが芸術文化に触れる機会を充実させるなど、人材育成に努めます。

出雲が誇る文化資源を世界へ発信

地域の歴史や文化遺産、出雲を題材にしたメディア芸術（映画、漫画、アニメーション）や地域伝統芸能の祭典など、国内外へ出雲の文化資源を活かした情報発信の取組を進めます。

photo

photo

photo

25 スポーツで元気な出雲を

基本方策　ともに結ぶ　ともに支える　ともに育む　ともに楽しむ

SDGs

「する」「みる」「支える」スポーツへ ～Enjoy Sports Enjoy Life～

○『「夢を育み、人を結び、まちが輝く」スポーツ文化都市・出雲の創造』の実現をめざします。市民一人ひとりがそれぞれのライフステージに応じて、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツを楽しみ、触れることのできる環境づくりを推進します。

○長年地域の方々に支えられている、大学三大駅伝の「出雲駅伝」をはじめとするスポーツイベントを引き続き開催し、スポーツ振興とともに、スポーツツーリズムやシティセールスなど、交流人口の拡大や地域の活性化につなげます。

○令和6年（2024）春に開館を予定している新体育館をはじめとした市内スポーツ施設について、市民が身近にスポーツに取り組める環境づくりに努めます。

○新スポーツとしてのeスポーツ（ビデオゲームを使った対戦をスポーツ競技として捉える際の名称）を推進します。

スポーツを支える人づくり

○スポーツ団体や企業と連携して、指導者の育成・確保に努めます。

○スポーツイベントの運営を支えるボランティアの育成に努めます。

自分を超えろ、神話をつくれ ～島根かみあり国スポ・障スポ～

令和12年（2030）に島根県において開催予定の、国民スポーツ大会を見据えた競技力向上、全国障害者スポーツ大会を見据えた障がい者スポーツの普及促進を図るなど、県とともに様々な取組を前へ進めます。

photo

photo

26 誰もの「学びたい」を実現

基本方策　ともに支える　ともに育む　ともに楽しむ

SDGs

地域で学び、楽しむ

本市の地域特性を活かし、地域の歴史や文化などについて学ぶ講座を開催します。その学習成果により、コミュニティを支えていく人材を育成し、市民が自ら地域課題の解決に参画できる社会の構築を進めます。

なんでも見つかる情報の宝庫

図書館においては、図書、郷土資料、新聞・雑誌、インターネット上の情報など幅広い資料の収集と提供を行い、市民の読書活動を支えるとともに、自主的な調査・研究や学習活動を支援します。

子どもと本のかけ橋に

豊かな心を育て、主体的に学び、たくましく生きる力を育てるために、図書館を核とし、家庭、学校、地域の読書ボランティア等と連携して、発達段階に応じた子どもの読書活動を推進します。

photo

photo

27 出雲の魅力、発信します ★

基本方策　ともに結ぶ　ともに育む　ともに楽しむ

SDGs

出雲ファンを増やす

○デジタルマーケティングの手法により、ウェブサイトへ誘導することで、主に県外に向けて本市をPRし、出雲ファンの増加につなげます。
○ふるさと納税を活用し、多くの人とご縁を結び、交流人口や関係人口の創出と拡大につなげます。

「いずもな暮らし」からはじめよう

移住支援情報や空き家情報など暮らしの情報を伝えるサイト「いずもな暮らし」や出雲で働く(活躍する)人「出雲人」に着目し、産業を紹介するサイト「出雲人-IZUMOZINE-」の充実を図り、「魅力」、「暮らし」、「しごと」の情報を伝え、市内への移住、就労につなげます。

日本中を駆ける!ヤマタノオロチ(出雲ナンバー)

出雲版図柄入りナンバープレート(出雲ナンバー)の普及促進を図り、出雲ナンバーを付けた自動車を走る広告塔として活用することで、出雲の認知度向上やイメージアップを図ります。

みんなに伝わる出雲の情報

市民が主役のまちづくりの実現のため、市民が必要とする情報をより分かりやすく伝えることで、市政への理解と関心が高まる広報活動をめざします。

photo

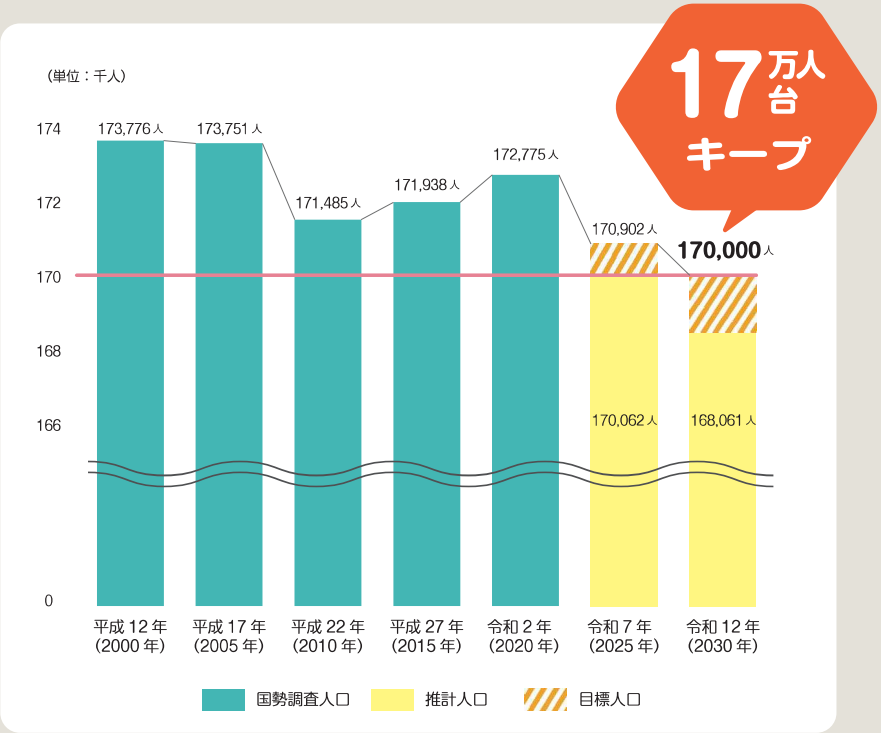
photo

photo

※「出雲市まち・ひと・しごと創生第2期総合戦略」記載の取組には、「★印」をつけています。

目標人口

令和 12 年（2030 年）

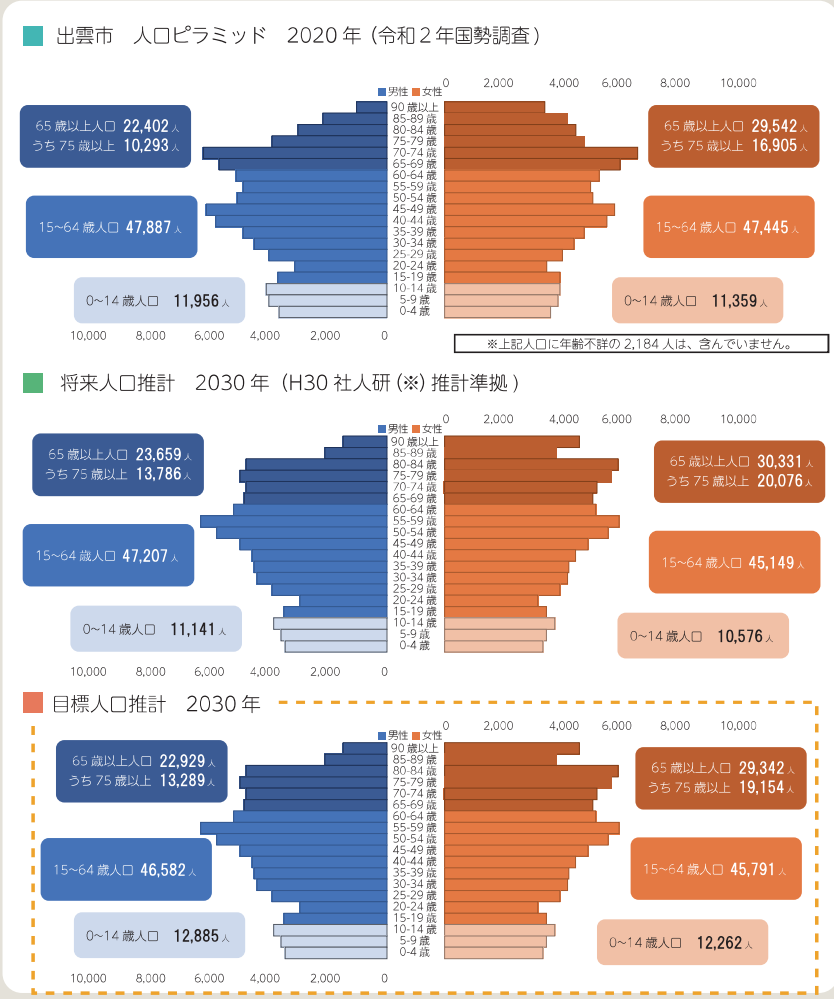


令和 2 年 (2020) 3 月に策定した本市人口ビジョンでは、長期的にみると総人口の減少傾向が続き、令和12年 (2030) には17万人を割り込み16万8千人になると推計しています。

人口減少・少子高齢化の進展は、社会保障をはじめとする行政サービスの拡大を招く一方で、社会経済活動の縮小により税収の減少などにつながります。また、地域活動や地域行事・文化の継承が困難となり、ひいては地域コミュニティの崩壊につながることも考えられます。

本市においては、雇用の場や働く人材の確保、移住・定住対策、結婚から子育てまで切れ目のない支援に加え、新しい時代の流れにも対応しながら、若者の夢がかなえられる、誰もが生き生きと活躍できる、そしてどこに住んでいても安全、安心に暮らせるまちづくりを進めることで、令和 12 年 (2030) の人口 17 万人維持をめざします。また、特に山間部や海岸部などの人口減少が顕著な地域においては、それぞれの地域が抱える個別課題を多様な視点から整理し、分野横断的な施策を展開することで課題解決につなげます。

将来人口推計と目標人口推計



本市人口ビジョンでは、2060 年に向けて、出生数が減少し、年少人口（0 歳～1 4 歳）の割合が少ない「つぼ型」の人口ピラミッドになると推計しています。この年少人口割合の減少傾向は、2030 年推計人口において既に現れており、早期の対策が必要です。

目標人口では、出生数の増加や社会増により、年少人口を増加させることで、人口増減の均衡がとれた「つりがね型」の人口ピラミッドとなるよう、年齢構成のバランスの改善をめざします。

※平成30年に国立社会保障・人口問題研究所が公表した人口推計